

令和6年度 自己評価書

令和7年2月19日
札幌市立山鼻中学校

1 本年度の重点目標

1. 「山鼻基盤」再確認と再構築 2. 生徒の言葉で語る「山鼻中の伝統づくり」 3. 「学びの質を高める」教育活動の工夫改善 4. 「生徒支援型の生徒指導」の推進 5. 「小中一貫した教育」を連動したコミュニティ・スクールの構築

2 本年度の経営方針

新しい変化を恐れず、柔軟性・寛容性をもって挑戦し続ける山鼻中学校の創造
～「人間尊重の教育」を推進し、「自立」、「他者尊重」、「新たな価値の創造」を学校経営のキーワードに位置づけ、学校教育目標「未来を拓く、心豊かな生徒の育成」に迫る。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校運営	1 楽しく通学することができ、入学して良かったと思われる信頼される学校の創造がなされている。	A	・山鼻中学校に入学して（させて）よかったか、学校生活が楽しいかという問いに対して R4-R5 比+5.1 ポイントからさらに 1.8 ポイント増であった。 ・全校体制で生徒の見守りを行っていることや、小中連携の取組により、小中間のギャップを解消するよう努めてきたことが評価されたのではないかと考える。	A	A
	2 学校経営方針を具現化した、特色ある学年・学級経営が行われており、学校から教育活動について、家庭に発信することができる。	A	・昨年度とほぼ横ばいの数値だが、生徒の肯定的な回答は 4 ポイント増であった。さらなるポイント増のために生徒が自分の言葉で「山鼻らしさ」を語るができるよう生徒会主催の行事を工夫していきたい。	A	A
	3 安心・安全な学校づくりが推進され、命を大切に生き方について考えを深める教育が、様々な場面で展開されている。	A	・前年度比 3.9 ポイント増であった。命の授業（全校道徳、学年道徳）の実施に際し、保護者、地域の参観を呼び掛けたことが増加の理由であると考えられる。今後も保護者参観の機会を確保するとともに、すぐーでの発信を行っていききたい。	A	A

学校関係者
評価委員によるご意見

- ・「挨拶」について、家庭内できちんと行ったり、大きな声で挨拶できれば人間関係の改善につながるので励行してほしい。
- ・コロナ禍以降、人との関わりをもちたいと考える大人が増えてきている。そこから道徳の授業など保護者が参観する機会を確保できないか（動画配信も視野に入れて）
- ・幼児教育の影響によるいじめ、不登校の割合について知りたい。
- ・見て見ぬふりをする今の社会で大人がどのように連携し、子どもを育てていくか。
- ・地域に関わる者として「山鼻中らしさ」を深化させる取組を大いに期待している。

学習指導	4	基礎・基本の確かな定着と、学ぶ意欲を高める学習内容や方法の工夫改善が行われている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度比 12.6 ポイント増であった。定期テストの回数、時期を今年度から変更し、ゆとりをもって学習に取り組めるようにしたこと、それに伴う授業の工夫、改善や一人一台端末の利活用の充実がポイント増につながったのではないかと考えられる。 ・標準学力検査や全国学力・学習状況調査では、全国平均を上回っている。 	A	A
	5	美しく豊かな人間性を育むための確かな学び、道徳教育を推進している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度比 8.8 ポイント増であった。 ・道徳では学年道徳（命の授業）、全校道徳講演会において、講師を招き、講演をしていただいた。生徒の感想を見ると、深い学びにつながっていた者が多数見られた。 ・総合的な学習の時間におけるキャリア学習の部分では、市内事業所や上級学校の方に講演していただき、グループ学習に発展させる取組が定着している。 	A	A
	6	生徒一人一人の創造性の育成を重視した上で、情報化社会に遅く対応できる基礎的な資質を育てている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度比 5.7 ポイント増であった。一人一台端末の活用は学校生活、学習の両面で十分定着している。今後は生成 AI の活用に着目し、正しく活用できるよう教員の研修を深めていきたい。 	A	A
学校関係者 評価委員によるご意見		<ul style="list-style-type: none"> ・勉強は親の関わりも重要で、ある程度までは親が引っ張り、わずかな時間でも家庭学習を行わせて学校と連携してほしい。 ・AI を利活用する際、情報を鵜呑みにしないよう注意が必要。併せて情報の真偽を見抜く力、自分で考える力を失わないように指導することが必要。 ・生徒自身とともに家庭においても学習状況、成果を「可視化」することに努めてほしい。 				

分野	評価項目	自己評価			
		達成状況	改善の方策		
生活指導	7 教職員が同じ方針で情報交流し合い、共通の見地に立ち、生徒理解に努め、生徒指導に当たっている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度比 6.3 ポイント増であった。生徒指導に関わる会議を定期的に行い、情報共有していることや、SC を講師として生徒指導研修を行った効果があらわれたものと考ええる。 ・今年度から生徒指導部を「生徒支援部」に改称し、生徒指導のスタンスを考え直し、「寄り添った指導」を行うよう意識した。 ・今年度から導入したシャボテンログによる生徒の状況把握は一定の効果が見られた。 	A	A
	8 生徒自らがきまりやマナーを守るよう規範意識の育成に努め、挨拶を大切に、人との関わりを大切にす学校づくりを推進している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度比 3.2 ポイント増であった。大半の生徒は校内のルール、マナーを意識して生活している。また、旅行的行事でも、訪問先に迷惑をかけることなく過ごすことができていた。 ・登校の時間など、挨拶の励行に努めてきた結果。気持ちのよい挨拶を交わす生徒の数は増えてきている。 	A	A
	9 相談活動やスクールカウンセラーとの連携を行い、いじめや暴力、不登校等の今日的な課題に対して迅速に対応している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度比 7.1 ポイント増であった。教育相談、いじめ対策に関してはかなりの時間を使っていることもあり、トラブル対応については一定の成果が見られた。 	A	A
特別活動等	10 学校行事には、生徒が意欲的に取り組めるように工夫している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度比 1.1 ポイント減であった。文化祭では、生徒が主体的に取り組み、達成感や自己肯定感が得られるよう、全体計画から当日までの流れを見直し、よりよい取組となるよう工夫していきたい。 	A	A
	11 生徒が学級・学年・生徒会の活動に積極的に参加するように工夫している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度比 1.2 ポイント増であった。文化祭や合唱発表会では楽しく参加している生徒が多く見られた。 ・準備日程で、放課後の時間をかなり使っているため、一部の生徒や教員の負担が大きくなっている部分は、改善していく必要がある。 	A	A
学校関係者評価委員会によるご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の登校時の挨拶、見守りをはじめ、学校長が生徒と同じ目線にいる場が多く、大変良い。 ・挨拶は社会人の土台となる大切なことであると指導してほしい。 ・不登校の子どもについて、他の子どもが考える機会を作ってはどうか。 ・いじめについて、加害側や学級全体で考え、振り返る場を作るべきではないか。 ・生徒「指導」から「支援」としていることで、より生徒に寄り添うことができるよう期待している。 ・教育相談の効果がより充実するようお願いしたい。 				

① 評価項目の【 】内は、生徒・保護者アンケートの番号を表す。

② 達成状況のアルファベット評価は、「A」が各アンケート項目の達成率の平均値が 70%以上、「B」が 50%以上、「C」が 50%未満を示す。アルファベット評価の下の数値は、各アンケート項目の達成率の平均を表す。

※ 学校関係者評価委員会における評価は多数決ではなく、1名でもCの場合はCというように最も低い評価を記載しました。